

一人ひとりの発達を踏まえた関わり方について～乳幼児体験の大切さ～

健やか育て・育ち直りアドバイザー
元愛知学泉短期大学幼児教育科教授 角田 春高

※ はじめに 日本の子育ての現状

(1) 「園での虐待」「不適切保育」は、日本の危機ではないか

①

②

③

(2) 長年の相談、事例援助経験から（子どもを中心に、子どもの発達を促す保育への一助）

①

2、気になる子への理解と関わり方

(1)

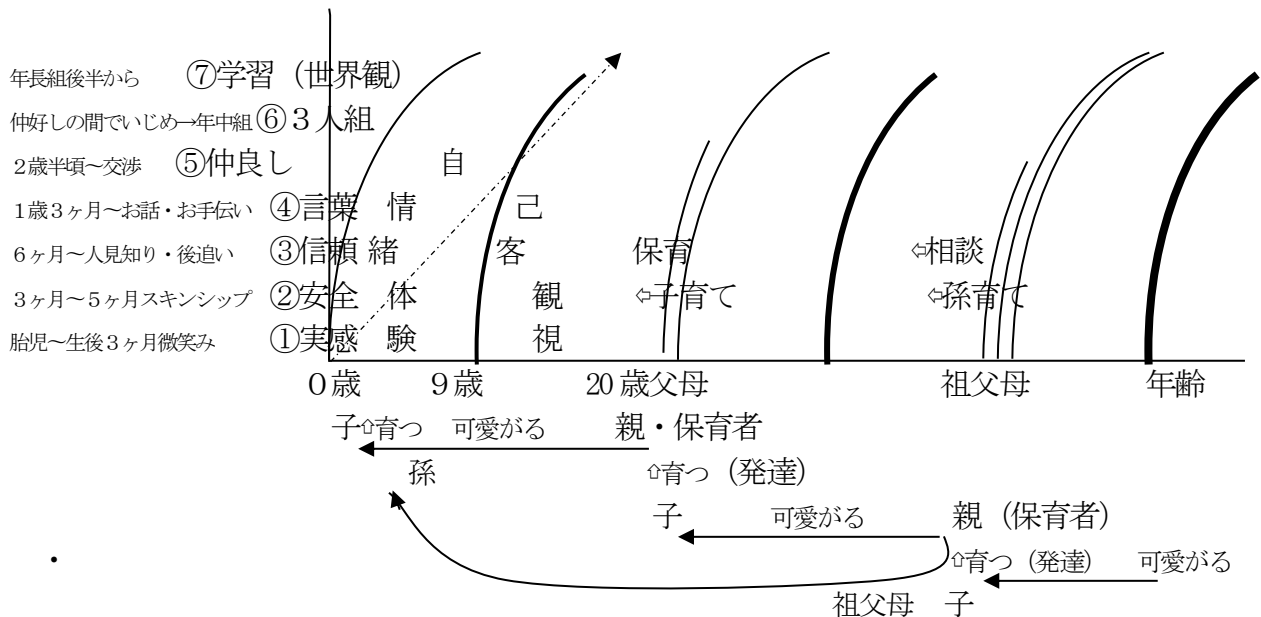
(2)

(3)

(4)

(5)

2、心の発達の基本モデル（＝発達過程） ＜“今” から、あきらめないで、大人になる道筋を参照
 ＊乳幼児から老人までの相談経験を基（エビデンス）にして、年齢相応に育った人、育ち直った人に共通するものとして7つの節目（発達課題）を繰り返して大人になる二段階人格形成論を組み立てた。
 日本には、「つ」の付くうちの子育て、や、三つ子の魂百まで、との言い伝えがある（正の連鎖）



発達課題： 人格の形成（心の成長）の節目（ものさし） ＜いずれは経験する必要がある発達の節目＞

（注）〈 〉の中は、原体験期での問題行動或いは症状 《 》の中は、自我確立期以降での問題行動或いは症状

【第1課題】 生きている実感（病気やけがをして、その怖いことが分かる）《**実感**》

＊全面的に親に保護、養育されて、生きている⇨喜んであやしてもら⇨微笑む（3ヶ月頃）
 〈能面ずら、表情が乏しい、存在感がない、作り笑顔、作り笑い、発達障害など〉
 《いじめ（発達障害、精神病型、自死）不登校（統合失調症型）、精神病（統合失調症）、自殺・自殺企図、無差別殺人、摂食障害、一揆飲み、性非行など》

【第2課題】 物や場所、人による安心感の広がり 《**安全・安心、身を守る感覚**》

＊おんぶや抱っこされて、いつもと違う経験をする⇨抱き癖⇨しがみつき⇨慰められて慣れていく
 〈乱暴、多動、危険が分からない、言葉の遅れ、一部の発達障害・グレーゾーンなど〉
 《アルコール（スマホ、薬物、ギャンブルなど）依存症、ゲームお宅、いじめ（孤立）、不登校（閉じこもり）、窃盗、援助交際、ストーカー、DV恋愛、プチ家出、性非行など》

【第3課題】 人（親）による安心感の広がり 《**基本的信頼**》＜一人の人としての自立＞

＊人見知り（6カ月頃から）これが母ちゃんだ！⇨後追い（8カ月頃から）⇨自分が困ったとき親（大人）に頼れる⇨断りを入れられて分かれる⇨親は自分を見捨てない⇨安心して一人遊び
 〈乱暴、おとなしい、保育者に抱かれたり、側にいる、母子分離不安、言葉の遅れなど〉
 《いじめ（訴える）、不登校（母子分離不安、家庭内暴力）性非行、援助交際など》

【第4課題】 自分の経験を言葉で覚え、言葉で表し、言葉で分かる 《**言葉でのやり取り**》

＊口より先に手が出る（指さし、散らかし）⇨言葉で伝える⇨親の真似をする⇨言葉で言われたことを実行する（お手伝い）⇨自己主張（お話しできる）・意志を持てる
 〈口より前に手が出る、言葉遅れ、お話が下手など〉
 《いじめ（優柔不断・言動の不一致）、指示待ち症候群、すぐ暴力に訴えるなど》

【第5課題】 対等な二人遊び（喧嘩もするが仲直りもできる）《**仲良し**》以上が、三つ子の魂百まで

＊イヤ！・交渉の始まり（2歳半過ぎ）⇨譲ったり譲ってもらったりの学習⇨親を怒らせる⇨親

と仲直り⇔同世代で取り合い、互いの言い分を聞いてもらって仲直り⇔A君とばかり遊ぶ
〈主従関係、イヤといえない、物でつって遊ぶことと区別、喧嘩の仲裁の難しさなど〉
《親分・子分、小山の大将集団と区別、喧嘩の仲裁の難しさなど》

この課題の基礎まで達成している子どもを本来「3歳児保育」の対象（5領域）として考えている。
ここまで成長・発達していない子どもには、どのように乳幼児保育するのか？ それとも、「障害のある子」としてこの先も生きていくもの考えるのか？

- ・思春期以降の大人になって不祥事を起こしたとき、ここまで成長・発達していない子ども時代であつたと思われる。
- ・子ども園、保育園、幼稚園での保育は、原則として、ここまでの発達をしている子どもを対象にしているが、子どもたち一人ひとりを見ると、「育ちの格差」生じていることと向き合う必要がある。

【第6課題】 対等な三人遊び（仲間外しと仲間外れを通して、二人の間に入る）《対等な三人組》

*Aさんと仲好し、Bさんと仲好し、Cさんと仲好し（お互いには仲好しの間柄）⇔AさんとBさんとが遊んでいる時の入り方 ⇔ Aさんと遊んでいるBさん、Cさんの入れ方⇔大人の仲介で、AさんとBさんCさんとが仲良く遊ぶ

〈一過性いじめたり・いじめられたり、いじめ仲裁の難しさ〉

《一過性いじめたり・いじめられたり、いじめ仲裁の難しさ》

【第7課題】 学ぶ（学習）意欲（宇宙の中の私）《世界観》（生かされて生きている）

*何となくの気分、豆博士、同じことでも親より先生の言ったときに従う。世界の広さに驚嘆し、自然のすごさ、暖かさ、怖さなどを経験しながら、畏れの気持ちが持てるようになる

まとめ

- 1、育て直すことで子どもが育ち直す経験を基（エビデンス）に、一応、赤ちゃんが大人になる道筋がある（人格の形成）と考える。この発達論が曖昧のままで、子育てや保育、相談が語られている。まず、この健やかな大人になる道筋を学習する必要がある。
- 2、成長・発達とは、人格形成であり、順に積み重なるものである。問題行動や症状も不適切な関わり方で形成される。
- 3、乳幼児体験は、何歳からでも経験することができ、誰かによって経験できれば人生をやり直すことができる。思春期以降、大人まで、諦めることはない
- 4、「気になる子」の保育は、「保育の原点」である。健やかな育ち（人格形成）が分かっている必要がある。何歳からでも不足している乳幼児体験を経験すると、子どもは立ち直ることができる。子どもの発達を促す関わり方は、保育者自身の育ちが密接に関わっているので、自らの生育歴を認める必要がある。

【参考文献】 角田春高

「振り返り」と「謝ること」で変わる保育～育て直し・育ち直り 文芸社（電子書籍） 2024,
赤ちゃんが大人になる道筋と育て直し 一粒書房、2020

＜“今”からはじめる育て直し＞＜あきらめないで、育て直し・育ち直り＞、親と園を結ぶ保育誌「げんき」(No77～166) いずれもエイデル研究所（Tel ; 03-3234-4641）

詳細は、「角田春高」で検索して見てください

今から取り組む保育と保護者・保育者援助、指導について～乳幼児体験への視点で～

1、「気になる子」の増加

（1）

（2）

（3）

2 保育者による養育者（保護者を含む）指導・援助

（1）養育者（保護者）の理解の仕方

3、育てる・育て直す保育と展開

（1）子どもの発達課題・育ちと発達過程を見る

①子どもの発達課題を見る

②子どもの発達過程を見立てる

(2) 発達を促す関わり方をする（保育者にとって、追体験となる）

(3) 子どもに変化、成長が現れる

(4) 保育者は保育が楽しくなる（これ無くして保育者の生きがいはない！また保育者の親指導、援助はない！）が、親の気持ち・態度はどうかを見る（親指導、援助の始まり）

(5) 親の理解にあたっては、親自身の発達課題と自分の育ちを向き合う気持ちがあるかを見る

4、近年の「親（保護者）」って？ 近年の「保育者」って？

(1) 「親」とは、

(2) 一人の大人として

(3) 近年の話題となる「親」

5、養育者（親・保育者）に求められること

(1)

(2)

(3) 例えば；

6、まとめ

(1) 保育者は、まず、子どもの理解と関わり方に手応えを持つ

(2) 子どもの変化、成長に伴う保護者の変化に関心を持つ

(3) 保護者の人格形成の基礎（＝三つ子の魂）と、育ち直りの過程のどこにいるかを見立てる

(4) 保護屋の子どもの悩み（子どもの見方が関わり方か、自分自身の抱える悩みか）を聞く様に努める

(5) 保護者の悩みに合わせて、助言、指導、行動見本をする

(6) 保護者が子どもと関わる手応えを持つ

(7) 保護者とともに、子どもの成長・発達（特に、三つ子の魂を培う）に関心を持って関わる

(8) 保育者同士も、その育ちを認め、育ち直ろう（育て直しを通して、育ち直す仲間作り！）

※ 養育者が園児の発達を促していないと認めない間、養育者としては園児を真綿で首をしめて
いる！と自覚すること

【参考文献】 角田春高

「振り返り」と「謝ること」で変わる保育～育て直し・育ち直り 文芸社（電子書籍あり） 2024,
赤ちゃんが大人になる道筋と育て直し 一粒書房、2020

＜“今”からはじめる育て直し＞＜あきらめないで、育て直し・育ち直り＞、親と園を結ぶ保育誌「げんき」（No77～166） いずれもエイデル研究所（TEL；03-3234-4641）

詳細は、「角田春高」で検索して見てください